

指導と評価の年間計画・評価規準の作成について

10 外国語

<目次>

- | | | |
|-----|------------------------------------|---------|
| I | 「指導と評価の年間計画」、「評価規準」及び「単元計画」の作成の手引き | P 1～8 |
| II | 「指導と評価の年間計画」（コミュニケーション英語 I）<例> | P 9～12 |
| III | 「単元計画」（コミュニケーション英語 I）<例> | P 13～15 |
| IV | 「学習指導案」（コミュニケーション英語 I）<例> | P 16～18 |

I 「指導と評価の年間計画」、「評価規準」及び「単元計画」の作成の手引き

1 「指導と評価の年間計画」の作成について

(1) 年間計画の内容

ア 新学習指導要領の科目の「指導と評価の年間計画」を作成するに当たっては、外国語を通じてコミュニケーション能力を養うという教科の目標を達成するために、該当科目により「どのような力」を「どのような」に「どの程度」まで身に付けさせたいかを明確にするよう、下記の項目について明記すること。

<項目>

●全教科共通事項

・学年 ・学科 ・科目名 ・単位数（週時数） ・年間予定時数
 ・教科書名 ・副教材名 ・指導の重点

●外国語科の必須事項

①月 ②配当時間（時数） ③単元名、題材内容、題材利用の視点
 ④単元の目標 ⑤指導内容（主な学習活動、言語活動）
 ⑥単元の評価規準（目標の達成状況を内容のまとめりごとに分析的に評価できるもの）
 ⑦評価方法

イ 様式の体裁等の理由により、上記の項目全てについて記述できない場合でも、各学校で別途作成する「単元計画」の中では明確に定めておくこと。

(2) 指導内容（主な学習活動、言語活動）について

ア 言語材料や、文法事項（用語）のみの記述にならないこと。

イ 授業においては、「4技能の総合的な指導を通して、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成すること」、「文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること」及び「授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とすること」に留意し、指導内容や主な学習活動について適切に記すこと。

(3) 評価規準について

ア 評価の観点及びその趣旨

①学習指導要領を踏まえ、「コミュニケーション英語Ⅰ」の特性に応じた評価の観点及びその趣旨は以下のとおりである。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

イ 内容のまとめり

「コミュニケーション英語Ⅰ」においては、学習指導要領の内容に示されている言語活動を基に、次のとおり、内容のまとめりが設定されている。

- ① 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
- ② 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。
- ③ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。
- ④ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。

以上①～④の言語活動を、それぞれ、

- ①は、聞いて理解する活動なので、「聞くこと」
- ②は、読んで理解したり音読したりする活動なので、「読むこと」
- ③は、話すことを中心に展開する活動なので、「話すこと」
- ④は、書いて表現する活動なので、「書くこと」と捉え、これらを内容のまとめりとしている。

ウ 内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

①「聞くこと」

①「聞くこと」の評価規準に盛り込むべき事項			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
「聞くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。		英語を聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。	英語の仕組み、使われている言葉の意味や働きなどを理解しているとともに、言語の背景にある文化を理解している。
①「聞くこと」の評価規準の設定例			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 相づちを打ったり、必要に応じてメモをとったりするなど、相手の話に関心をもって聞いている。 聞いたことについて、簡単な言葉や動作などで反応している。 聞き取れない箇所や未知の語句があっても、推測するなどして聞き続けている。 相手に確認したり、繰り返しや説明を求めたりしながら聞き続けている。 		<ul style="list-style-type: none"> 単語の発音、音変化、リズムやイントネーションなどの音声的な特徴を捉えて的確に聞くことができる。 語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を的確に聞き取ることができる。 質問、依頼、指示などを聞いて、簡単な言葉や動作などで適切に応じることができる。 場面や状況、背景、相手の表情などを踏まえて、話し手の意図を把握することができる。 出来事や物事についての説明や様々な会話を聞いて、重要な語句などを手がかりにして概要や要点を理解することができる。 情報と考えを、事実と意見を区別し、理解しながら聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単語の発音、音変化、リズムやイントネーションなどの音声的な特徴を理解している。 話し手の意図や気持ちを表すリズムやイントネーションなどの違いを理解している。 「聞くこと」の言語活動に用いられている語句や文構造、文法事項などについての知識を身に付けている。 場面や状況、目的に応じた表現や論理の展開を表す表現についての知識を身に付けている。 英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「聞くこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。

②「読むこと」

②「読むこと」の評価規準に盛り込むべき事項			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。	聞き手に伝わるように英語で音読することができる。	英語を読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。	英語の仕組み、使われている言葉の意味や働きなどを理解しているとともに、言語の背景にある文化を理解している。
②「読むこと」の評価規準の設定例			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 読みながらメモをとるなどして、関心をもって読んでいる。 個人、ペア、グループなどでの音読に積極的に取り組んでいる。 必要に応じて辞書などを活用して読んでいる。 理解できないことや 	<ul style="list-style-type: none"> 単語の発音、リズムやイントネーションなどの音声的な特徴を捉えて音読することができる。 意味内容が聞き手に伝わるように音読することができる。 その場の状況、 	<ul style="list-style-type: none"> 語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を的確に読み取ることができる。 説明などを読んで、特に重要な事実等を捉えることを通じ、全体の要旨を理解することができる。 物語などを読んで、登場人物の言動やその言動の理由等を捉えることを通じ、概要や要点を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単語の発音、リズムやイントネーションなどの音声的な特徴を理解している。 「読むこと」の言語活動に用いられている語句や文構造、文法事項などについての知識を身に付けている。 段落におけるトピック・センテンスの働きについての知識を身に付けている。 文と文、段落と段落のつなが

未知の語句があっても、推測するなどして読み続けている。	聞き手の反応、話題、伝えようとする内容や気持ちなどに応じた適切な速度や声の大きさを音速することができる。	る。 <ul style="list-style-type: none"> つながりを示す語句に注意して文章を読み、論理がどのように展開しているかを把握することができる。 文章の内容から、書き手の意図を推測することができる。 説明などを読んで、事実と意見などを区別して内容を理解することができる。 読んだ内容についての賛否や簡単な感想を述べるができるように、批判的に読むことができる。 	りを示す語やフレーズを理解している。 <ul style="list-style-type: none"> 場面や状況、目的に応じた表現や論理の展開を表す表現についての知識を身に付けている。 様々なメディアに特有の文体や論理構造の特徴を理解している。 英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「読むこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。
-----------------------------	--	---	---

③「話すこと」

③「話すこと」の評価規準に盛り込むべき事項			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。	情報や考えなどについて、英語で話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。		英語の仕組み、使われている言葉の意味や働きなどを理解しているとともに、言語の背景にある文化を理解している。
③「話すこと」の評価規準の設定例			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 間違うことを恐れず、積極的に情報や考えなどについて話している。 互いに協力しながら、質問したり意見を交換したりしている。 うまく言えないことがあっても、既知の語句や表現を用いるなどして情報や考えなどを伝えている。 授業を通して学んだことや、学校や家庭などにおける日常生活の中で学んだり経験したりしたことを積極的に活用して話している。 	<ul style="list-style-type: none"> 単語の発音、リズムやイントネーションなど音声的な特徴を捉えて適切に話すことができる。 語句や表現、文法事項などの知識を活用して適切に話すことができる。 場面や状況に応じた適切な表現を用いて話すことができる。 情報や考えなどについて互いに質問したり、質問に答えたりすることができる。 聞いたこと、学んだこと、経験したことについて、その概要や自分の意見を話すことができる。 その場の状況、聞き手の反応、話題、伝えようとする内容や気持ちなどに応じた適切な速度や声の大きさを話することができる。 事実と意見などを区別して話すことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 単語の発音、リズムやイントネーションなどの音声的な特徴を理解している。 「話すこと」の言語活動に用いられている語句や文構造、文法事項などについての知識を身に付けている。 話し合いや意見の交換を円滑に行うために必要な表現や方法についての知識を身に付けている。 文と文、段落と段落のつながりを示す語やフレーズを理解している。 場面や状況に応じた表現についての知識を身に付けている。 英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「話すこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。

④書くこと

④「書くこと」の評価規準に盛り込むべき事項			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。	情報や考えなどについて、英語で簡潔に書くことができる。		英語の仕組み、使われている言葉の意味や働きなどを理解しているとともに、言語の背景にある文化を理解している。

④「書くこと」の評価規準の設定例			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・間違ふことを恐れず、積極的に情報や考えなどについて書いている。 ・読み手が理解しやすくなるように書いたり、書き直したりしている。 ・必要に応じて辞書などを活用して書いている。 ・うまく表現できないことがあっても、既知の語句や表現を用いるなどして書き続けている。 ・授業を通して学んだことや、学校や家庭などにおける日常生活の中で学んだり経験したりしたことを積極的に活用して書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句や表現、文法事項などの知識を活用して適切に書くことができる。 ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことについて、その概要や自分の考えを簡潔に書くことができる。 ・聞いたり読んだりした内容を、平易な表現に置き換えたり、情報の順番を変えるなどして、読み手に分かりやすい文章を書くことができる。 ・自分が伝えたいことについて、話題を明示した上で、それに関する意見やその理由を書くことができる。 ・トピック・センテンスやキーワードを適切に用いて、要点が明確な文章を書くことができる。 ・つながりを示す語やフレーズを適切に用いて、論理の展開が明確な文章を書くことができる。 ・事実と意見などを区別して書くことができる。 ・読み手からの指摘に基づいて、表現の曖昧さを無くしたり、語句や文法などの誤りを正したりすることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」の言語活動に用いられている語句や文構造、文法事項などについての知識を身に付けている。 ・正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身に付けている。 ・段落におけるトピック・センテンスの働きについての知識を身に付けている。 ・文と文、段落と段落のつながりを示す語やフレーズを理解している。 ・場面や状況に応じた表現についての知識を身に付けている。 ・英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「書くこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。

(4) 評価方法について

ア 学習評価は、観点別学習状況の評価における「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「外国語表現の能力」、「外国語理解の能力」及び「言語や文化についての知識・理解」の4つの観点を総合して行うことを踏まえ、適切な評価方法を計画すること。

イ 各単元における指導内容や学習活動内容を適切に評価するために、授業中における観察（活動の観察、生徒の応答）及び定期テスト（ペーパーテスト）以外に、単元に応じて下記の評価方法を実施する計画を立てること。

<評価方法（例）>

- | | | |
|--------------------|----------------|---|
| ① ライティングテスト（エッセイ等） | ② リスニングテスト | |
| ③ インタビュー（面接）テスト | ④ プレゼンテーション | |
| ⑤ スキット | ⑥ スピーチ | |
| ⑦ ディベート | ⑧ 音読テスト | |
| ⑨ 暗唱テスト | ⑩ ワークシート（作品提出） | 等 |

2 「単元計画」の作成について

(1) 単元計画の内容

ア 学習指導要領に基づく「単元計画」は、「指導と評価の年間計画」に記されていることを、どのような指導方法、学習活動及び言語活動を用いて単元目標を達成し、どのような評価方法でどのような評価規準に従い適切に評価するかについて、1単元ごと、配当時間の中でどのように計画するのかを記すものである。言い換えれば、「単元ごとの指導と評価の計画」である。

イ 単元計画は、次の内容構成で作成する。

①単元の目標

②単元の指導に当たっての考え方

③単元の評価規準

- ・ 4観点別に示した評価規準、「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの。

④指導と評価の計画

- ・ 時間
- ・ ねらい、学習活動、指導上の留意点
- ・ 単元の評価規準
- ・ 評価方法

(2) 評価規準の設定について

ア 上記1(3)で示した「コミュニケーション英語Ⅰ」の評価規準の設定例は、主に単元の評価規準を設定する際の参考となるように作成されている。各学校において評価規準を設定する際は、次の点に留意して行うことが大切である。

①外国語科の目標と各科目の目標との系統性

- ・ 外国語科においては、学習指導要領で高等学校の課程を通じて目指すべき目標が示されており、各学校において地域や学校の実態、課程や学科の特色、生徒の心身の発達の段階及び特性等を十分に考慮して指導計画を作成することとなっている。教育課程全体を通じた外国語科の目標と各科目の目標との系統性に留意しながら、各科目の年間計画、単元の目標や内容、学習活動及び評価規準を設定する。

②「コミュニケーション英語Ⅰ」の評価規準の設定

- ・ 学習指導要領には、外国語科において指導する内容として言語活動が示されており、「コミュニケーション英語Ⅰ」においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」の4技能に関わる言語活動がこれに当たる。したがって、評価規準の設定においては、指導の結果としてこれらの4技能に関わる内容がどの程度身に付いたかを評価できるようにする。

<具体的な流れ>

- ① 「コミュニケーション英語Ⅰ」における科目の到達目標を観点別に設定する。
 - ② ①の実現に向け、単元ごとに、各観点に照らして指導と評価の計画を立てる。
 - ③ 各単元で重点的に指導する内容を確認し、評価規準及び評価方法を設定する。
- ・ 単元における重点的に指導する内容と評価規準の設定は、コミュニケーション能力育成のための指導方法の工夫・改善と表裏一体の関係にある。例えば、「読むこと」における「外国

語理解の能力」の評価規準の設定例で挙げられている各項目は、「読むこと」の言語活動について学習指導要領及び解説が求めている内容を基に作成したものであり、英語を読んで理解する能力が、英語を日本語に訳す能力と同じではないことを示している。このように、単元ごとの評価規準の設定は、コミュニケーション能力を育成するために何を指導すべきかを明確にすることが前提となっている。

イ 教科書の1課を単元とみなし、単元の評価規準を設定する際は、「評価規準の設定例」等を活用するなどして、次のような手順で行う。

①年間指導計画に基づく単元の位置付けの確認

- ・まず、年間指導計画における単元の位置付け、すなわち、年間の到達目標達成に向けた単元での指導内容を検討する。その際、扱う題材内容や言語材料の特徴、指導の時期等を踏まえ、「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」に関わる事項を中心に、4技能のどの部分に重点を置いて指導するかを検討する。

②単元の目標、評価規準及び評価方法の設定

- ・単元における指導内容の重点を決定した後、より具体的な単元の目標、評価規準及び評価方法を検討する。これらは相互に関連しているため、同時に検討することが重要である。単元の目標は評価規準として活用することができ、その評価規準にふさわしい評価方法を決定することとなる。例えば、「話すこと」に指導の重点を置いた単元の場合、「話すこと」の「評価規準の設定例」で例示されている事項を参考にしながら、その単元における指導目標及び評価規準を作成する。また、同じ設定例であっても、評価の場面で求める知識の量や活動の難易度を変えることにより、異なる単元で活用することも考えられる。

3 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定について

(1) 「指導と評価の年間計画」及び「単元計画」への反映について

ア 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標は、指導と評価の年間計画と有機的に関連付けることが重要である。従って、各校において、「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標を設定する場合は、年間計画を並行して策定し、各単元における目標、主な学習活動、評価方法等を計画すること。

イ 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標をどのように指導と評価の年間計画及び単元計画へ反映するかについては、下記(2)及び、文部科学省作成『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』を参照すること。

<文部科学省ホームページ>

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1332306.htm

(2) 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標

ア 目的

観点別学習状況の評価における「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」について、生徒が身に付ける能力を各学校が明確化し、主に教員が生徒の指導と評価の改善に活用する。

イ 作成・活用の手順（フローチャート）

①検討体制の構築

- ・学習到達目標の設定過程に外国語担当教員等全員が参加し、管理職の理解や協力、リーダーシップのもと、言語を用いて何ができるようになることを目指すかという観点から、生徒の実態を踏まえた上で、育成したい能力や生徒像、学習指導要領に基づいた指導と評価の方法を共有する体制を構築する。

②卒業時の学習到達目標設定

- ・生徒の学習の状況や地域の実態等を踏まえた上で、卒業時の学習到達目標を、言語を用いて「～することができる」という形で設定する。

③学年ごとの学習到達目標設定

- ・卒業時の学習到達目標を達成するための学年ごとの目標を、「CAN-DOリスト」の形で設定する。

④年間の指導と評価の計画への反映

- ・「CAN-DOリスト」の形で設定した学年ごとの学習到達目標を年間指導計画等に位置付け、各単元における目標、主な学習活動、評価方法等を計画する。

⑤単元ごとの指導と評価の計画への反映

- ・各学校で実際に行われる学習活動を基に、各単元の目標及び評価規準を設定する。
- ・教科書を中心に単元の目標を達成するのに適した教材を活用した各時の学習指導を計画する。
- ・目標の達成状況を把握するための具体的な評価を計画し、単元計画に位置付ける。

⑥授業と評価

- ・単元の目標や評価規準を意識して、言語を用いて何ができるようになるかという観点から計画した授業を実施する。
- ・観点別学習状況の評価における「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」について、評価の計画に従い、学習活動の特質等に応じて、生徒の学習状況を的確に評価できる方法で実

施する。

- ・単元等の区切りの中で適切に設定した時期において評価する。さらに学期や学年といった単位で学習の実現状況をまとめる。

⑦達成状況の把握

- ・各単元の目標や学年ごとの学習到達目標の達成状況を把握し、指導や評価の改善に生かす。

⑧学習到達目標の見直し

- ・設定した卒業時及び学年ごとの学習到達目標が適切であったかどうかを検討し、必要に応じて見直す。

Ⅱ 指導と評価の年間計画(コミュニケーション英語Ⅰ)〈例〉

岐阜県立●●高等学校

[学年・学科] 第1学年・普通科		[科目] コミュニケーション英語Ⅰ		[単位数] 3単位	[年間予定時数] 105時間		
[教科書] ▲▲English Communication I		[副教材名]▲▲英字新聞, OXFORD****					
<p>指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題について、3分程度の即興性のある自然な会話ができる。 ・先生の説明を聞いて理解し、その通りに作業ができ、クラスメイトの意見を聞いて理解できる。 ・handoutに沿って、教科書本文の語句や内容を理解できる。 ・身近な話題について、80語程度の英文を書ける。 ・基本単語150語の読み物を理解できる。 							
月	単元 (配当時間)	題材内容	題材利用の視点	単元の目標	単元の教科規準	主な学習活動・言語活動	評価方法
4 ・ 5	Preparatory Lesson (2時間)	家族や自分の夢を自己紹介の形式で述べる一定のまとまりある英文を題材として、文の要素や品詞、句と節などが提示される。	英語の語順や品詞、句や節などの意味のまとまりを中学レベルの英文で理解し、フレーズリーディングの基礎知識を身に付ける。				
	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」						
	(本単元では設定しない)	(本単元では評価しない)					
	「外国語表現の能力」						
	(本単元では設定しない)	(本単元では評価しない)					
	「外国語理解の能力」						
	・英文を意味のまとまり(チャンク)ごとに分け、フレーズリーディングを通じて、文頭から意味内容を把握していく読み方を実践し身に付ける。	・英文をチャンクに適切に分けることができる。 ・戻り読みをせずに、文頭から情報を追加しながら内容把握ができる。	・英文を黙読しながらチャンクごとにスラッシュを入れる。 ・チャンクごとに内容を絵で示す。	・ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況の判断材料として活用する。			
	「言語や文化についての知識・理解」						
	・英語の基本的な語順について知り理解する。	・英語の基本的な語順について知り理解できる。	・英文を黙読しながらチャンクごとにスラッシュを入れる。	・ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況の判断材料として活用する。			
	Lesson1 <単元名> ●●●●● (9時間)	血液型による性格判断に対する日本人と外国人の考え方の違いや、その科学性について論じる内容。	血液型性格判断に対する日本と諸外国の認識の差異の原因を、フレーズリーディングを用いながら整理して読んで理解するとともに、題材を用いた簡単な自己紹介や応答活動を口頭で遂行することができるレディネスを涵養する。				
「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」							
・自分の考えを、必要となる情報に関わる単語をつなぎ合わせて、口頭で何とか相手に伝えようとする。	・自分の考えを、必要となる情報に関わる単語をつなぎ合わせて、口頭で何とか相手に伝えようとすることができる。	・ワークシートやメモを用いて、口頭で伝える。	・ペアでの言語活動を観察する。				
「外国語表現の能力」							
・簡単な自己紹介(名前、出身中学、好きなもの、性格など)を口頭で話す。	・簡単な自己紹介(名前、出身中学、好きなもの、性格など)を口頭で話すことができる。	・未習語はあらかじめメモしておき、それらを使用して口頭で自己紹介をする。 ・ワークシートを用いて、本文の内容や自分の考えをまとめ、それを基に意見を伝える。	・ペアでの言語活動を観察する。 ・ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況の判断材料として活用する。				
・血液型性格判断を信じるか、またその理由について、口頭で意見を交換する。	・血液型性格判断を信じるか、またその理由について、口頭で意見を交換することができる。						
「外国語理解の能力」							
・空所が与えられている本文の要約文に、キーワードを選択または思い出して完成する。 ・フレーズリーディングを用いて、本文の内容を把握する。	・空所が与えられている本文の要約文に、キーワードを選択または思い出して完成することができる。 ・フレーズリーディングを用いて、本文の内容を把握することができる。	・空所が与えられている本文の要約文に、キーワードを選択または思い出して完成する。 ・WPMを計測しながら本文を読み、ワークシートの正誤問題を用いて内容理解を確認する。	・ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況の判断材料として活用する。				
「言語や文化についての知識・理解」							
・話題を特化する表現(動名詞、不定詞)の使い方を理解する。 ・日本と諸外国の認識の差異がそれぞれに特有の諸事情に起因することを理解する。	・話題を特化する表現(動名詞、不定詞)の使い方を理解することができる。 ・日本と諸外国の認識の差異がそれぞれに特有の諸事情に起因することを理解することができる。	・本文中で用いられている意味や用法を確認する。 ・差異を生み出す諸事情を本文より抜き出したり、まとめたりする。	・筆記テストにおいて、知識が身に付いているか判断する。 ・ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況の判断材料として活用する。				

月	単元 (配当時間)	題材内容	題材利用の視点	単元の目標	単元の教科規準	主な学習活動・言語活動	評価方法	
6	Lesson2 <単元名> ●●●●● (10時間)	カレーのルーツや語源、またカレーがインドからイギリスを経て日本に伝播した歴史やその広がりについてプレゼンテーションの形式で説明する内容。	時系列に沿って出来事やその歴史的つながりを整理して全体の概要をつかみながら読み進めるとともに、そこで得た情報や自分の考えを他者に伝える能力を育む。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				・ペアでの言語活動を観察する。 ・パフォーマンステスト(プレゼンテーション)
				・ペアワークを用いて、相手の反応を確認しながら、自分の考えを伝えたり、賛成や反対を伝える。	・ペアワークを用いて、相手の反応を確認しながら、自分の考えを伝えたり、賛成や反対を伝えることができる。	・ペアワークを用いて、相手の反応を確認しながら、自分の考えを伝えたり、賛成や反対を伝えることができる。	・ペアワークを用いて、相手の反応を確認しながら、自分の考えを伝えたり、賛成や反対を伝えることができる。	
				「外国語表現の能力」				
				・読んで得られた情報をワークシートの質問を利用して相手に伝える。	・読んで得られた情報をワークシートの質問を利用して相手に伝えることができる。	・ワークシートで与えられた質問に答え、その内容を口頭で伝える。	・ペアでの言語活動を観察する。 ・パフォーマンステスト(プレゼンテーション)	
				「外国語理解の能力」				
				・読んで得られた内容を時系列的に書きだし、整理しながら概要をつかむ。	・読んで得られた内容を時系列的に書きだし、整理しながら概要をつかむことができる。	・ワークシートのまとめ表の空所を利用して、出来事や必要な情報をまとめる。	・ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況の判断材料として活用する。	
				「言語や文化についての知識・理解」				
・情報を追加する表現(分詞の後置修飾)や現在完了の使い方を理解する。	・情報を追加する表現(分詞の後置修飾)や現在完了の使い方を理解することができる。	・本文中で用いられている意味や用法を確認する。	・筆記テストにおいて、知識が身に付いているか判断する。					
7 ・ 9	Lesson3 <単元名> ●●●●● (10時間)	英語圏の若者がメールで使用する新種の特有言語やエモティコン(顔文字)の表わす意味や成り立ち、特徴、影響について具体例を含めて解説する内容。	得た情報を活用する基礎力を身につけるとともに、メール特有の表記やエモティコンの日米比較を通じて、異文化理解の視点や言語そのもののへの興味・関心を高める。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				・ペアでの言語活動を観察する。
				・ペアワークを用いて、お互いに意見を交換しながら、その内容について簡単に応答する。	・ペアワークを用いて、お互いに意見を交換しながら、その内容について簡単に応答することができる。	・相手の意見に対して1つ以上の質問をしたり、相手からの質問に応答する。	・ペアでの言語活動を観察する。	
				「外国語表現の能力」				
				・本文に関連して、日本語でのインターネット上や若者特有の短縮表現について英語で説明する。	・本文に関連して、日本語でのインターネット上や若者特有の短縮表現について英語で説明することができる。	・あらかじめ調べてメモを作成しておき、具体例とその意味や用法を口頭で説明する。	・ペアでの言語活動を観察する。	
				「外国語理解の能力」				
				・英語圏でのメールなどで若者に特有な言語やエモティコンのルールとその具体例を整理しながら理解する。	・英語圏でのメールなどで若者に特有な言語やエモティコンのルールとその具体例を整理しながら理解することができる。	・ワークシートを用いてルールごとにまとめる。 ・メールなどに特有な表記を用いた例文を解説し、通常の表記に直してみる。	・ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況の判断材料として活用する。	
				「言語や文化についての知識・理解」				
・情報を追加する表現(関係代名詞)や主語+動詞+疑問詞節(間接疑問文)の使い方を理解する。 ・文化によって独自の手法や着眼点があることや、言語の変化について理解し、関心を高める。	・情報を追加する表現(関係代名詞)や主語+動詞+疑問詞節(間接疑問文)の使い方を理解することができる。 ・文化によって独自の手法や着眼点があることや、言語の変化について理解し、関心を高めることができる。	・本文中で用いられている意味や用法を確認する。 ・メール特有の短縮表記のルールやエモティコンの特徴を、日本と英語圏で比較しながらまとめる。	・筆記テストにおいて、知識が身に付いているか判断する。 ・ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況の判断材料として活用する。					
Lesson4 <単元名> ●●●●● (11時間)	ゴリラのコミュニケーション方法を通じて彼らと人間の類似点を知るとともに、人間の活動がゴリラの生存に与える影響を理解し、その解決法について考えるインタビュー形式の内容。	キーワードやトピックセンテンスを抜き出すことにより、インタビュー内容の論点や要点をまとめることができるとともに、調べた事柄を簡潔にまとめて発表するための基礎能力を育む。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				・グループでの言語活動を観察する。	
			・自分で調べてまとめたことについて、グループで簡潔に紹介する。	・自分で調べてまとめたことについて、グループで簡潔に紹介することができる。	・作成したレポート内容のキーワードをメモし、それを基にグループで伝え合う。	・グループでの言語活動を観察する。		
			「外国語表現の能力」					
			・絶滅危惧種の現状と理由について簡潔にレポートをまとめ、それを基に口頭で説明する。	・絶滅危惧種の現状と理由について簡潔にレポートをまとめ、それを基に口頭で説明することができる。	・課題についてあらかじめ調べてレポート作成し、それを基にグループに伝える。	・グループでの言語活動を観察する。		
			「外国語理解の能力」					
			・キーワードやトピックセンテンスを抜き出して、インタビューの論点ごとに内容をまとめたり、タイトルを付ける。	・キーワードやトピックセンテンスを抜き出して、インタビューの論点ごとに内容をまとめたり、タイトルを付けることができる。	・ワークシートを用いてインタビューの論点(パート)別にタイトルを付け、キーワードやトピックセンテンスを抜き出して書く。	・ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況の判断材料として活用する。		
			「言語や文化についての知識・理解」					
・推測して述べる表現や、動作の継続を表す表現の使い方を理解する。	・推測して述べる表現や、動作の継続を表す表現の使い方を理解することができる。	・本文中で用いられている意味や用法を確認する。	・筆記テストにおいて、知識が身に付いているか判断する。					

月	単元 (配当時間)	題材内容	題材利用の視点	単元の目標	単元の教科規準	主な学習活動・言語活動	評価方法	
10	Lesson5 <単元名> ●●●●● (10時間)	山田周生さんが使用済みの植物油を燃料とする自動車「バスコファイブ号」で世界を旅する経緯や経過、またその中で得られた事柄について語る内容。	時系列や場面に沿って出来事を整理し概略をとらえながら、同じ時間内で読むことのできる文章量を増強させる。また本文に関連して自分自身の日常の活動について簡潔に他者に伝える能力を伸ばす。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				グループでの言語活動を観察する。
				・自分で調べてまとめたことについてグループで簡潔に紹介するとともに、相手の発表に関して自分の考えを述べる。	・自分で調べてまとめたことについてグループで簡潔に紹介するとともに、相手の発表に関して自分の考えを述べるができる。	・課題についてあらかじめ調べてレポートを作成し、それを基にグループに伝える。	・相手の意見に関して自分の意見や感想を付け加える。	
				「外国語表現の能力」				
				・環境に優しい活動について調べ、自分の考えや意見を伝える。	・環境に優しい活動について調べ、自分の考えや意見を伝えることができる。	・課題についてあらかじめ調べてレポートを作成し、それを基にグループに伝える。	・クラス全体での発表を観察して取組状況の判断材料として活用する。	
				「外国語理解の能力」				
				・段落間のつながりを意識して、時系列や場面に沿って、本文全体の展開をまとめる。	・段落間のつながりを意識して、時系列や場面に沿って、本文全体の展開をまとめることができる。	・ワークシートを用いて段落別に、ある出来事の年月や場面をまとめ、一覧表にする。	・ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況の判断材料として活用する。	
・同じ時間内で読むことのできる文章量を増やす。	・同じ時間内で読むことのできる文章量を増やすことができる。	・WPMを計測しながら、本文をパラフレーズしたものや関連する英文を読んで、内容理解を確認する。	・本文の音読および内容に関する口頭での英問英答テストを実施する。					
「言語や文化についての知識・理解」								
・様々な時制の表現方法や使役動詞の使い方を理解する。	・様々な時制の表現方法や使役動詞の使い方を理解することができる。	・本文中で用いられている意味や用法を確認する。	・筆記テストにおいて、知識が身についているか判断する。					
・国や文化を越えて人間として共通する気持ちや問題意識に気付く。	・国や文化を越えて人間として共通する気持ちや問題意識に気付くことができる。	・山田さんへの各国の人々の具体的な支援の姿とその理由について考える。	・ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況の判断材料として活用する。					
11・12・1	Lesson6 <単元名> ●●●●● (11時間)	「神の手」を持つ福島医師の医師としてのキャリアや信条、姿勢、医師になった経緯を通じて将来自分が就きたい職業について考えさせる内容。	トピックセンテンスや支持文を用いて段落ごとに内容をまとめることができるようになることと、自分自身に関する事柄について口頭で説明することができる能力を伸ばす。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				グループでの言語活動を観察する。 ・エッセイライティング
				・ペアワークにおいて、お互いに協力しながら会話を続ける。	・ペアワークにおいて、お互いに協力しながら会話を続けることができる。	・相手の意見に対して感想を述べたり質問をしたりして、会話を続ける。		
				「外国語表現の能力」				
				・自分自身に関する事柄(将来就きたい職業など)について簡単なメモを用いて、具体的に口頭で説明する。	・自分自身に関する事柄(将来就きたい職業など)について簡単なメモを用いて、具体的に口頭で説明することができる。	・自分自身に関する事柄(将来就きたい職業など)について、理由や内容、目標などを具体的に口頭で説明する。	・グループでの言語活動を観察する。 ・エッセイライティング	
				「外国語理解の能力」				
				・トピックセンテンスや支持文を用いて段落の構成を意識して、内容をまとめる。	・トピックセンテンスや支持文を用いて段落の構成を意識して、内容をまとめることができる。	・ワークシートを用いて、トピックセンテンスを抜き出し、その端的な例や具体的な説明を自分の言葉に直して簡潔に書く。	・ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況の判断材料として活用する。 ・エッセイライティング	
「言語や文化についての知識・理解」								
・It～thatの形式主語構文や知覚動詞＋目的語＋動詞の原形／現在分詞の使い方を理解する。	・It～thatの形式主語構文や知覚動詞の使い方を理解することができる。	・本文中で用いられている意味や用法を確認する。	・エッセイライティングにおいて、知識が身に付いているか判断する。					
11・12・1	Lesson7 <単元名> ●●●●● (11時間)	ガイドツアーが屋久島エコツアーのオリエンテーションを行うという設定で、エコツアーの意義や屋久島の地理や気候、観光地について説明する内容。	キーワードや本文中の様々な数値を基にトピックごとの主要情報や内容をまとめることと、それらを用いて自分の言葉に言い換えて口頭で説明することができる能力を育てる。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				グループでの言語活動を観察する。
				・写真などを用いて、相手に分かりやすく効果的な、簡単なプレゼンテーションをする。	・写真などを用いて、相手に分かりやすく効果的な、簡単なプレゼンテーションをすることができる。	・課題についてあらかじめ調べてレポート作成し、写真などを使用して分かりやすく伝える。	・自分の発表に対する質問に的確に答える。	
				「外国語表現の能力」				
				・写真などを用いて、観光地紹介のプレゼンテーションをする。	・写真などを用いて、観光地紹介のプレゼンテーションをする。	・自分の住む地元や行ったことがある、もしくは行ってみたい観光地の紹介文を作成し、写真などを用いてプレゼンテーションをする。	・クラス全体での発表を観察して取組状況の判断材料として活用する。	
				・上記について、新出の言語材料を用いて表現する。	・上記について、新出の言語材料を用いて表現することができる。	・上記の情報提供の際、関係詞を用いて表現する。	・プレゼンテーションにおいて活用できるか判断する。	
				・キーワードや本文中の様々な数値を基にトピックごとの主要情報や内容をまとめる。	・キーワードや本文中の様々な数値を基にトピックごとの主要情報や内容をまとめることができる。	・本文内容の主要情報を自分の言葉で再構成して書き直す。	・プレゼンテーションにおいて活用できるか判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」								
・情報を追加する表現(前置詞＋関係代名詞、関係副詞)の使い方を理解する。	・情報を追加する表現(前置詞＋関係代名詞、関係副詞)の使い方を理解することができる。	・本文中で用いられている意味や用法を確認する。	・プレゼンテーションにおいて、知識が身に付いているか判断する。					

月	単元 (配当時間)	題材内容	題材利用の視点	単元の目標	単元の教科規準	主な学習活動・言語活動	評価方法		
2 ・ 3	Lesson8 <単元名> ●●●●● (11時間)	女子柔道の普及に生涯をかけたアメリカ人女性、ラスティー・カノギの半生と功績を時系列的に紹介する内容。	主にリスニングを通じて時系列に沿って出来事をつかんだり、そこで得た情報を基に出来事の順番にその概略を自分の言葉で説明することができる能力を養う。また内容に関して自分の感想を書くことができる力をつける。			「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」 ・ペアワークを用いて、お互いに意見を交換しながら、内容を深めようとする。	・ペアワークを用いて、お互いに意見を交換しながら、内容を深めようとする。相手の意見に対して感想を述べたり質問をしたりして、会話を続ける。	・ペアでの言語活動を観察する。	
						「外国語表現の能力」 ・手紙の形式で、感動したことや考えたこと、感想を書く。	・手紙の形式で、感動したことや考えたこと、感想を書くことができる。	・ラスティーさんの生き方の中で最も心に残ったことや考えたことを、ブレインストーミングを通じて深め、整理してラスティーさんに宛てる手紙として書く。	・作文(手紙)を提出させ、その内容を取り組み状況の判断材料として活用する。
						「外国語理解の能力」 ・主にリスニングを通じて、本文内容を時系列で把握する。	・主にリスニングを通じて、本文内容を時系列で把握することができる。	・聞き取った内容をワークシートに書き込みながら、柔道家としてラスティーさんの転機となった出来事の概要を時系列的に整理して把握する。	・ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況の判断材料として活用する。
						「言語や文化についての知識・理解」 ・文に情報を追加する表現(分詞構文)や関係代名詞のwhatの使い方を理解する。	・文に情報を追加する表現(分詞構文)や関係代名詞のwhatの使い方を理解する。	・本文中で用いられている意味や用法を確認する。	・筆記テストにおいて、知識が身についているか判断する。
						「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」 ・英単語や概念を相手に理解できるように平易に説明しようとする。	・英単語や概念を相手に理解できるように平易に説明しようすることができる。	・ペアワークで、お互いに積極的に問答を続ける。	・ペアでの言語活動を観察する。
						「外国語表現の能力」 ・専門的な用語や科学的概念について、平易な英語で口頭で説明する。 ・新出の言語材料を用いてテーマに沿って意見を交換する。	・専門的な用語や科学的概念について、平易な英語で口頭で説明することができる。 ・新出の言語材料を用いてテーマに沿って意見を交換する。	・本文に登場する専門的な用語や科学的概念についてメモを用いて、言い換えて伝える。 ・仮定法を用いて「もし宇宙にいけたら何がしたいか」について口頭で問答する。	・ペアでのインタビューテスト ・筆記テストにおいて、活用できるか確認する。
						「外国語理解の能力」 ・専門的な用語や科学的概念について、平易にまとめる。	・専門的な用語や科学的概念について、平易にまとめることができる。	・専門的な用語や科学的概念について本文を参考にして、自分の言葉で言い換えてまとめる。	・ペアでのインタビューテスト ・筆記テストにおいて、活用できるか確認する。
						「言語や文化についての知識・理解」 ・現実には実現困難な仮定を表す表現(仮定法過去)や倍数を表す表現の使い方を理解する。	・現実には実現困難な仮定を表す表現(仮定法過去)や倍数を表す表現の使い方を理解することができる。	・本文中で用いられている意味や用法を確認する。	・ペアでのインタビューテスト ・筆記テストにおいて、知識が身についているか判断する。
						「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」 ・ペアやグループで討論して、ある一定の結論を得るための基礎技能を身につける。	・ペアやグループで討論して、ある一定の結論を得るための基礎技能を身につけることができる。	・同意や反論を表す表現を知り、ペアやグループでの討論の際に使用する。	・ペアやグループでの言語活動を観察する。
						「外国語表現の能力」 ・テーマについて、根拠や理由を明らかにしながら説明する。 ・新出の言語材料を用いてテーマに沿って説明や意見を交換する。	・テーマについて、根拠や理由を明らかにしながら説明することができる。 ・新出の言語材料を用いてテーマに沿って説明や意見を交換することができる。	・物語の登場人物を自分自身に置き換え、自分ならどのように行動したか、根拠や理由を明らかにしながら、口頭で説明する。 ・上記について仮定法過去完了を用いて説明や意見交換をする。	・本文の音読および内容に関する質問テストを実施する。 ・上記テストの質問に含めて、活用できるか確認する。
						「外国語理解の能力」 ・パート間の内容的なつながりを意識して本課全体をまとめるとともに、トルコが親日的である理由を知る。 ・登場人物の心情を理解して読む。	・パート間の内容的なつながりを意識して本課全体をまとめるとともに、トルコが親日的である理由を知る。 ・登場人物の心情を理解して読むことができる。	・ワークシートを用いて本課全体を把握しながら、トルコが親日的である理由を明確にする。 ・登場人物の心情を簡潔に表現する。	・ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況の判断材料として活用する。 ・本文の音読および内容に関する口頭での英問答テストを実施する。
						「言語や文化についての知識・理解」 ・追加の説明を与える表現(関係代名詞の非制限用法)や過去に実現しなかったことに関する仮定を表す表現(仮定法過去完了)の使い方を理解する。	・追加の説明を与える表現(関係代名詞の非制限用法)や過去に実現しなかったことに関する仮定を表す表現(仮定法過去完了)の使い方を理解することができる。	・本文中で用いられている意味や用法を確認する。	・筆記テストにおいて、知識が身についているか判断する。
	Lesson 10 <単元名> ●●●●● (10時間)	約100年の歳月を隔てた2つの事件がどのように日本とトルコの友好関係を育んだのかを、物語を中心として読み取る内容。	パート間の内容的なつながりを意識して本課全体をまとめるとともに、自分の意見や考えを根拠や理由を明らかにして書いて発表する能力を育てる。						

Ⅲ 単元計画（コミュニケーション英語Ⅰ）〈例〉

◆「コミュニケーション英語Ⅰ」の目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

◆「コミュニケーション英語Ⅰ」の評価の観点の趣旨

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

1 単元

- 単元名 : Lesson ● 『*****』
 ○単元の重点 : 「読むこと」から「話すこと」につなげる指導

2 単元の目標

- ア ペア・ワークにおいて、互いに協力しながら会話を続ける。
 イ 人物についての説明を読んで、その内容を口頭で要約する。
 ウ 読んだことに基づき、自分の将来の夢について話す。
 エ 自分の考えや気持ちを伝える表現 (hope [that] S' + V' ~など) の使い方を理解する。

3 単元の指導に当たっての考え方

本単元は、海外に渡って成功を収めた日本人の料理人が、どのようにして自分の夢を見つけ、それを実現していったかについて、インタビューを通して紹介する内容である。
 高校生にとって関心の高い将来の夢や職業選択という話題について、読んで得た情報を口頭で要約するとともに、自分自身の考えやその理由を口頭で伝える能力を育成する。

4 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
①ペア・ワークにおいて、互いに協力しながら会話を続けている。	①人物についての説明を読んで、その内容を口頭で要約することができる。 ②読んだことに基づき自分の将来の夢について話すことができる。		自分の考えや気持ちを伝える表現 (hope [that] S' + V' ~など) の使い方を理解している。

(注) 本単元では、本文の内容理解を図りながら、学習した事項に基づいて話す活動に結び付けることを目指しているため、「外国語表現の能力」を中心に評価することとした。

5 指導と評価の計画(8時間)

*便宜上、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」→「関・意・態」、「外国語表現の能力」→「表現」、「外国語理解の能力」→「理解」、「言語や文化についての知識・理解」→「知・理」と表記。

時間	ねらい、学習活動、指導上の留意点	単元の評価規準	評価方法
1	<p>[ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文全体を速読し、キーワードなどを手がかりにして概要を捉える。 <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 教師のオーラル・イントロダクションを聞いたり教師からの質問に答えたりするなどして、単元内容についての背景となる知識（スキーマ）を高める。 ワークシートに示された概要把握のための質問を見てから本文全体を読み、必要な情報についてメモをとる。 ペアでQ-Aを行い、内容を確認する。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> (活動2) 読み取るべきポイントを精選して提示することによって、必要な情報の取得（スキヤニング）が目的であることを理解させる。 (活動3) ペア・ワークを行う前に、会話を続けるためには互いの協力が重要である点を理解させ、具体的方略（相づちを打つ、沈黙を埋める、賛成する、発言を促すなど）について表現を絞って指導する。 本文で学習したことを参考にしながら、単元の後半までに自分の将来の夢について考えておくよう指示する。 		
2 ～ 5	<p>[ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> 各セクション（§1～§4）の内容を口頭で要約するとともに、それに対する感想や意見を伝える。 <p>[学習活動]</p> <p>(第2時から第5時の各時に1セクションずつ扱うこととする。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 教科書を閉じて本文の音声を2回程度聞き、話題や概要を把握する。 必要に応じて、語、連語、慣用表現及び文構造について、意味や用法を確認する。 <p>[各セクションで練習させる文法事項等]</p> <p>§1：受け身表現及び that 節の中の時制 §2：関係代名詞 who §3：主語＋動詞＋目的語＋目的語 (= how to など) §4：think / hope / be afraid など＋[that] S' + V' ～</p> <ol style="list-style-type: none"> 本文を読んで、ワークシート上の Summary Chart (要約を書き込むフローチャート) を完成させる。 教師の質問に答えながら、Summary Chart 上の記入事項を確認し、本文の内容理解を深める。 CD を聞きながら、音読やシャドーイング練習をする。 ペアになって、Summary Chart を見ながら、各セクションの内容を口頭で要約する。その際、次のように、要約の方法を段階的に指導する。 <p>[口頭要約の段階的な指導]</p> <p>§1：与えられた質問に解答し、質問の英語と解答をつなぎ合わせて要約する。 §2：与えられた複数のキーワードを用いて要約する。 §3及び§4：自分で本文からキーワードを抜き出し、それを用いて要約する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 感想や意見を述べたり話を続けたりするために必要な表現 (He's cool / great / fantastic など＋ because... や What do you think? など) を練習する。 ワークシートに、各セクションの内容に対する感想や意見について話すためのキーワードをメモし、そのメモを参考にしながらペアで伝え合う。 	<p>知・理の①</p> <p>関・意・態の① (第5時)</p>	<p>筆記テスト (後日)</p> <p>活動の観察及びワークシート</p>

	<p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(活動1) リスニングでは、聞き取るべき事項をあらかじめ提示しておく。 ・(活動3) 本文を平易な表現で言い換えながら要約したり、感想を述べたりできるように、Summary Chart を含むワークシートの構成を工夫する。 ・(活動6) ペアで要約をする際、各セクションを段落単位で区切って分担させるなどの工夫をする。 ・(活動8) 感想や意見について話す前に、伝えたい内容を整理し、ワークシートにメモしたキーワードを使って話す練習をするなど、段階的に指導する。また、必要に応じて、個別の支援をする。 ・(活動8) ペア・ワークでは、パートナーを替えるなどして活動に変化をつけ、繰り返し練習できるようにする。 		
6	<p>[ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した語彙や文法事項等を活用して、本文を自分の言葉で要約したり自分の将来の夢について話したりする。 <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教科書を閉じてセクションごとに本文の音声を聞き、内容上のキーワードをメモする。 2 ペアになり、メモに基づいて、各セクションの内容を口頭で要約する。その際、次のような手順で活動する。 <ol style="list-style-type: none"> ① §1の聞き取りとメモ→生徒Aが要約 ② §2の聞き取りとメモ→生徒Bが要約 ③ §3の聞き取りとメモ→生徒Aが要約 ④ §4の聞き取りとメモ→生徒Bが要約 3 本単元で学習したことなどを参考にしながら、自分の将来の夢、その理由及びそれを実現するために必要なことについて考え、それらを伝えるためのポイントを簡単にメモする。 4 ペアになり、メモに基づいて、自分の将来の夢について伝え合う。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(活動2、4) ペア・ワークにおいて、より詳しい説明を求める質問をするなどして会話を継続させるよう促す。 ・(活動4) 自分の将来の夢について話す際は、本単元で学習した内容や表現などを積極的に活用するよう促す。 	<p>表現の①</p> <p>表現の②</p>	<p>インタビューテスト (後日)</p> <p>インタビューテスト (後日)</p>
7	<p>インタビューテスト (1時間目)</p> <p>[形式]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が個々の生徒へ質問をする。 <p>[テスト内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本文全体の内容を口頭で要約させる。 2 自分の将来の夢について話させる。 <p>[実施上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューテストは、教室の近くに別の場所を設けて実施する。 ・テストを待っている生徒は、他教師の監督の下、本単元の内容に関連した別の英文を読むなどの課題に取り組ませる。 ・評価の信頼性を確保するため、可能な限り、面接を録音(録画)しておく。 ・所要時間は生徒1人につき約2分とし、2時間連続のテスト時間帯を確保する。 	<p>表現の①</p> <p>表現の②</p>	<p>インタビューテスト</p>
8	<p>インタビューテスト (2時間目)</p> <p>[形式]、[テスト内容] 及び [実施上の留意点] は上記の第7時と同様だが、インタビューテスト終了後、クラス全体に対して講評をする。</p>	<p>表現の①</p> <p>表現の②</p>	<p>インタビューテスト</p>
後日	<p>筆記テスト (定期考査)</p> <p>hope [that] S' + V' ~ について、場面を与えて適切な表現を書かせる問題。</p>	<p>知・理の①</p>	<p>筆記テスト</p>

IV 学習指導案（コミュニケーション英語Ⅰ）〈例〉

- 1 日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇） 第〇限（〇〇：〇〇～〇〇：〇〇）
 2 指 導 者 〇〇〇〇〇
 3 指導クラス 〇年〇組（男子〇〇名・女子〇〇名）（習熟度別少人数編成クラス）
 4 場 所 〇〇教室
 5 学 級 観

〇〇科を専攻している生徒（1クラス40名）のうち、習熟度別少人数編成による〇〇名である。何事にも明るく前向きな姿勢で取り組むことができる。授業に対しては積極的に取り組み、ペア・ワークやグループ・ワークにおいて協力して共に学ぶ姿勢が身に付きつつある。

- 6 科目／単元名 コミュニケーション英語Ⅰ／Lesson〇〇 “〇〇〇〇”
 7 使用教材 教科書（コミュニケーション英語Ⅰ 〇〇〇〇）
 8 単元の目標

動物が知性を持っているのかどうかを調べるために4種類の動物（チンパンジー・鷺・オウム・タコ）について科学者たちが行った実験や観察についての本文を読んで、読み取った内容に対する自分自身の考えを、学習した語句や表現を積極的に活用しながら相手に伝えることができるようになる。

9 指導計画

指導内容	配当時間
教科書中の写真や教師のオーラル・イントロダクション等を利用して、単元の内容について背景知識を高めるとともに、本文全体を速読したりCDを聞いたりして概要を捉える。	1時間
科学者たちが行った4種類の動物（チンパンジー・鷺・オウム・タコ）に対する実験や観察、またその結果について読み取り、それぞれの動物が取った行動を理解する。	8時間 (本時1時間目)
動物と人間の相違点について自分の考えをまとめ、「動物は考えることができるかどうか」についてグループ内でミニディベート及びディスカッションをする。	3時間

10 本時の目標及び評価規準

(1) 目標

- ア ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加し、互いに協力しながら質問したり意見を交換したりする。
 イ 聞いたり読んだりした内容について、その概要や自分の考えを相手に伝える。
 ウ 説明文を読んで、特に重要な事実等を捉えることを通じ、全体の要旨を理解する。
 エ 聞いたり読んだりした内容について、賛否や簡単な感想を述べるための表現を理解する。

(2) 評価規準

①コミュニケーションへの関心・意欲・態度	②外国語表現の能力	③外国語理解の能力	④言語や文化についての知識・理解
ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加し、互いに協力しながら質問したり意見を交換したりしている。	聞いたり読んだりした内容について、その概要や自分の考えを相手に伝えることができている。	説明文を読んで、特に重要な事実等を捉えることを通じ、全体の要旨を理解することができる。	聞いたり読んだりした内容について、賛否や簡単な感想を述べるための表現を理解している。

11 本時の展開

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動 及び 指導上の留意点	主な 評価の観点	評価 方法
5分	1. Small Talk “What animals do you like? Why?” (ペア・ワーク)	・自分の好きな動物とその理由をペアで1分間伝え合う。 ・代表生徒がクラス全体に発表する。	・ Conversation Strategies を使ってできるだけ対話が長くよう促し、必要に応じて支援する。 ・ 数名の生徒を指名し、	・ 聞いたことについて簡単な言葉で反応したり、間違ふことを恐れ	・ 活動の観察

			クラス全体で共有する。	ず話したりしているか。(①)	
5分	2. Listening ・ポイントを絞った本文の聞き取りと場面の把握	・Who / Where にポイントを絞って本文を聞き、場面を把握する。	・与えられた点についてのみ拾い聞きをするよう指導する。	・聞き取った情報をメモし、関心をもって読んでいるか。(①、③)	・活動の観察及びワークシート
10分	3. Reading I & II ・登場人物の言動やその理由を捉え、概要や要点を把握 ・与えられたキーワードに基づいて、本文の内容を絵で表現	・本文を読みながら、T/F Questions に答える。 ・パラフレーズされた英文の空所補充をすることによって、本文の内容を理解する。 ・本文の内容理解に関する教師の発問に答える。 ・与えられたキーワードに基づいて、本文の内容を絵で表現する。	・T/F questions については、本文の中で答えを判断した英文に線を引きながら答えるよう指導する。 ・ビジュアル・エイドを用いて本文の内容理解を助ける。 ・各生徒のつまずきに応じて支援する。 ・本文の内容理解を促すような発問をする。 ・各生徒のつまずきに応じて支援する。	・理解できないことや未知の語句があっても、推測するなどして読み続けているか。(①) ・教師の質問に適切に答えているか。(③)	・活動の観察及びワークシート ・筆記テスト(後日)
8分	4. Reading III ・Listening to the Text (強調する語句や意味のまとまりの確認) ・音読 (Repeating, Buzz reading, Pair Reading)	・意味のまとまり (チャンク)、強く発音される語 (句)、音の連結などに注意して、記号を付けながらCDを聞く。 ・意味内容が聞き手に伝わるように音読する。	・英語の音声的な特徴に注意させる。 ・意味内容が相手に伝わるよう、強調すべき語 (句) や話す速度、声の大きさなどに注意するよう指導する。	・英語の音声的な特徴を捉えて音読しているか。(②) ・意味内容が聞き手に伝わるよう音読しているか。(②)	・活動の観察 ・活動の観察
10分	5. Speaking I & Writing I ・Express Yourself “Why did ○○ pretend that he didn’t know about the grapefruit?”	・与えられた問に対して、自分の考えを書く。 ・自分の考えについてグループで共有し合う。4人1グループになり、グループ内で順に、他の生徒の考えを確認しながら話し合いを進める。また、グループ内の意見には、必ず賛成または反対の意見を表明する。	・自分の考えが伝えられるよう指導する。 ・Conversation Strategies を積極的に使って話し合いが活発になるよう指導する。 ・相手に自分の考えが伝わるよう、話す速度や声の大きさ、強調などに注意して話すよう指導する。	・自分の考えを積極的に相手に伝えているか。(①) ・相手の発話に対して適切に応答しているか。(②、④)	・活動の観察 ・活動の観察

		<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを話したり書いたりする際は、本単元や本単元までに学習した以下の文法事項や表現などを積極的に活用する。 <ul style="list-style-type: none"> ○過去形 ○want O to do～ ○by myself / alone ○give O+O 	<ul style="list-style-type: none"> ○○の気持ちを推測させることによって、本文最後の英文、“Surprisingly, he was able to plan ahead and trick his friends.”についての理解を図る。 本単元や本単元までに学習した文法事項や表現などを積極的に活用しながら話したり書いたりするよう、適宜例示しながら指導する。 各グループを回り、必要に応じて支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した文法事項や表現などについての知識を適切に活用して話したり書いたりしているか。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> インタビューテスト(後日)
3分	6. Report <ul style="list-style-type: none"> グループで出した考えをクラス全体で共有 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動で出した自分の考えをクラス全体に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 数人の生徒に発表させるとともに、出された考えについてクラス全体にフィードバックする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを積極的に話しているか。(①、②、④) 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の観察
8分	7. Speaking II & Writing II <ul style="list-style-type: none"> Reading IIで自分が描いた絵と与えられたキーワードに基づいて本文を retelling 	<ul style="list-style-type: none"> Reading IIで自分が描いた絵と与えられたキーワードに基づいて、本文の要約を口頭でする。 家庭学習として要約を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> キーワードが原型になっているため、時制の変換をするよう指導する。 各生徒のつまずきに応じて支援する。 ライティングにおけるクラス(学年)内でのグローバルな文法的間違いについて、次時以降に共有して理解を深め、活用につなげる。 家庭学習となっている Target Sentences については、次時の授業でディクテーションする英文とし、その定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した文法事項や表現などについての知識を適切に活用して話したり書いたりしているか。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> 筆記テスト(後日) インタビューテスト(後日)
1分	8. Wrap-up <ul style="list-style-type: none"> 課題の指示と生徒へのフィードバック 		<ul style="list-style-type: none"> なるべく肯定的なコメントをすることで、motivational feedback を与えるようにする。 		